

2014年3月期第2四半期決算説明会

2013.11.26

NIPPON YAKIN

日本冶金工業株式会社

本日のアジェンダ

1. 2014年3月期第2四半期決算サマリー

経理部長 小林 伸互

2. 足元の状況と競争力強化の取組み

代表取締役社長 木村 始

＜参考＞主要データ(連結ベース)

2014年3月期第2四半期決算のポイント

- ①コストダウンと円安効果により、半期としては2年ぶり(2012年3月期第2四半期以来)に営業利益、経常利益、当期利益を確保
- ②販売量はステンレス一般材部門、高機能材部門とも前年同期比増加
- ③ニッケル価格下落と欧州、中国の低迷により売上高は業績予想に対し未達
- ④総コスト削減計画は計画に対し若干の遅れはあるが着実に実行

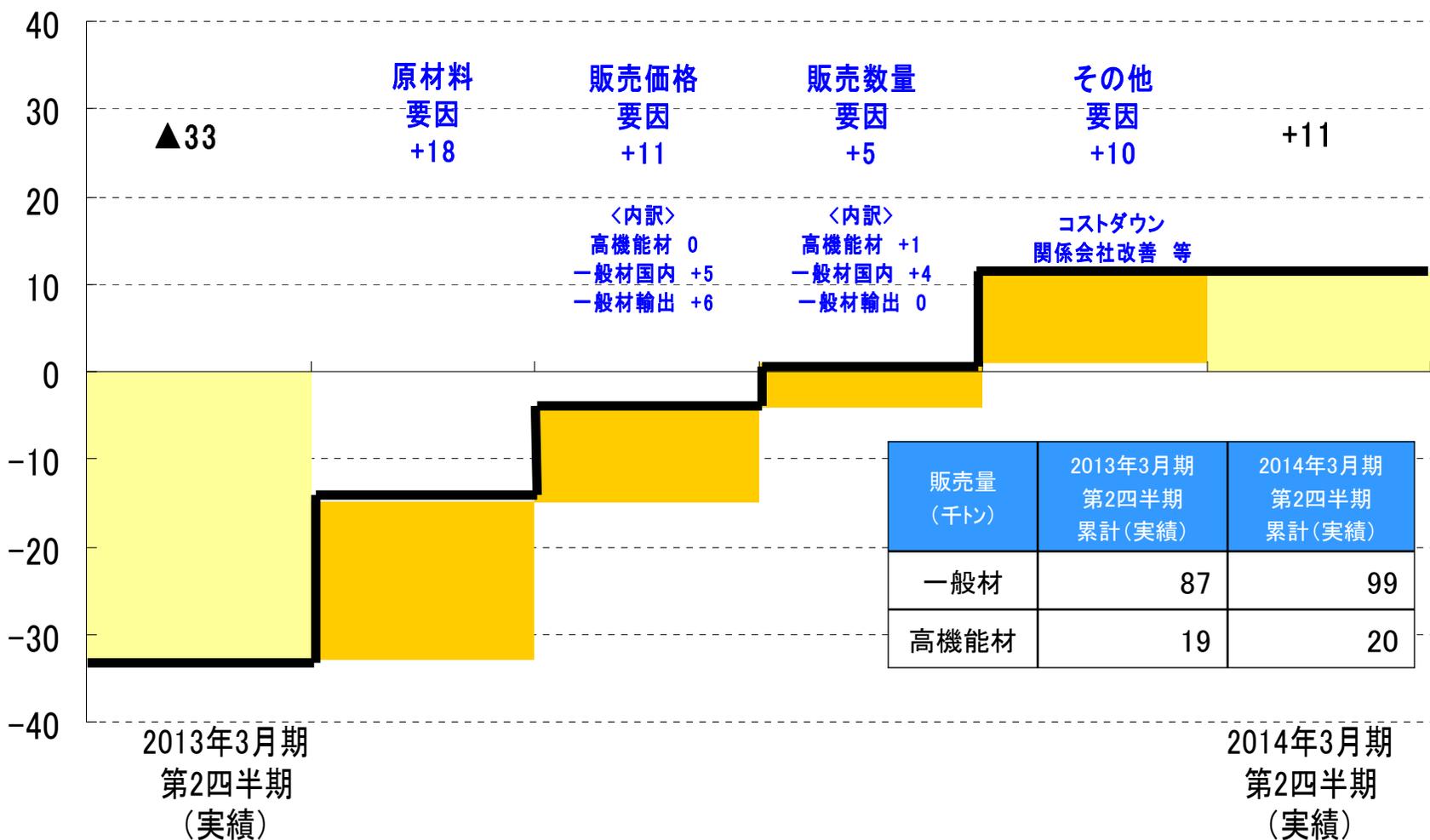
損益計算書 連結 概要

	2013年3月期 第2四半期 累計実績 (億円)	2014年3月期 第2四半期 累計実績 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)
売上高	528	576	48	9.1
営業利益	▲ 33	11	44	-
経常利益	▲ 40	6	46	-
当期純利益	▲ 48	5	53	-
ROA(%)	▲ 4.5	1.7		
高機能材部門 売上高比率(%)	37.8	35.4		

(注)ROAは(営業利益+受取利息・受取配当金)／期初・期末平均総資産×2

(ご参考)ニッケルLME期中平均価格: 2013年3月期上期7.60US\$/Lb、2014年3月期上期6.55US\$/Lb。

営業利益変動の要因分析(前年同期比較:億円)



貸借対照表 連結 概要

	2013年3月末 (億円)	2013年9月末 (億円)	前期比増減 (億円)	2013年3月末 構成比(%)	2013年9月末 構成比(%)
現金・預金	101	62	▲ 39	7.2	4.5
売掛債権	217	199	▲ 18	15.4	14.5
たな卸資産	276	297	22	19.6	21.6
その他流動資産	6	1	▲ 4	0.4	0.1
固定資産	808	814	6	57.4	59.2
【資産合計】	1,408	1,375	▲ 33	100.0	100.0
借入金・社債	637	634	▲ 3	45.2	46.1
その他負債	467	426	▲ 41	33.1	31.0
【負債計】	1,103	1,059	▲ 44	78.4	77.1
【純資産計】	305	315	11	21.6	22.9
自己資本比率(%)	21.6	22.9			

※前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、債権債務の一部について期末日期日のものが前連結会計年度に含まれております。主なものは現金・預金36億円、売掛債権5億円、借入金・社債6億円、その他負債35億円。

キャッシュフロー計算書 連結 概要

	2013年3月期 第2四半期 累計実績(億円)	2014年3月期 第2四半期 累計実績(億円)	2014年3月期 第2四半期 累計実績(億円) (期末休日影響除く)	前年比 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	8	▲ 15	(14)	▲ 23
税金等調整前中間(当期)純利益	▲ 48	6	(6)	53
減価償却費	22	19	(19)	▲ 3
売上債権の増加額(△)又は減少額	60	18	(23)	▲ 42
たな卸資産の増加額(△)又は減少額	0	▲ 22	(▲22)	▲ 22
仕入債務の増加額又は減少額(△)	▲ 25	▲ 33	(▲9)	▲ 8
法人税等の支払額	▲ 1	▲ 0	(▲0)	0
その他	▲ 2	▲ 3	(▲3)	▲ 2
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 28	▲ 14	(▲13)	14
有形・無形固定資産の取得による支出	▲ 28	▲ 14	(▲13)	14
その他	0	0	(0)	▲ 0
フリー・キャッシュフロー	▲ 21	▲ 30	(1)	▲ 9
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 18	▲ 9	(▲3)	9
長短借入金の純減少額(△)	▲ 21	▲ 3	(3)	18
その他	3	▲ 6	(▲6)	▲ 9
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	▲ 39	▲ 39	(▲3)	0

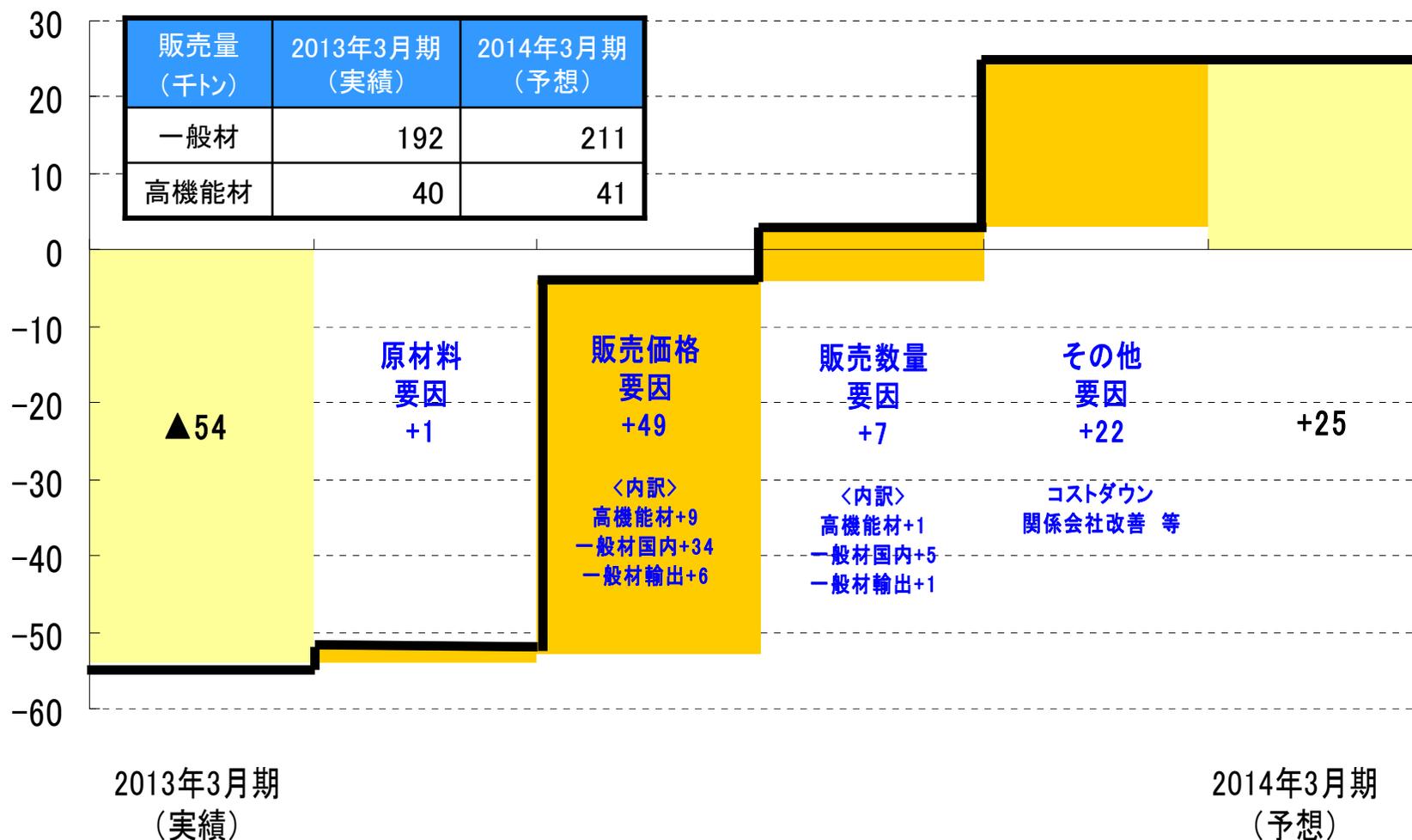
※前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、債権債務の一部について期末日日期日のものが前連結会計年度に含まれております。()内はその影響を除いたものです。

2014年3月期連結業績予想

	2013年3月期	2014年3月期		
	通期実績 (億円)	今回予想 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)
売上高	1,088	1,190	102	9.4
営業利益	▲ 54	25	79	-
経常利益	▲ 65	10	75	-
当期純利益	▲ 74	10	84	-

(前提)2014年3月期ニッケルLME期中平均価格：6.50US\$/Lb、為替レート 100円。

営業利益変動の要因分析(前期比較:億円)



本日のアジェンダ

1. 2014年3月期第2四半期決算サマリー

経理部長 小林 伸互

2. 足元の状況と競争力強化の取組み

代表取締役社長 木村 始

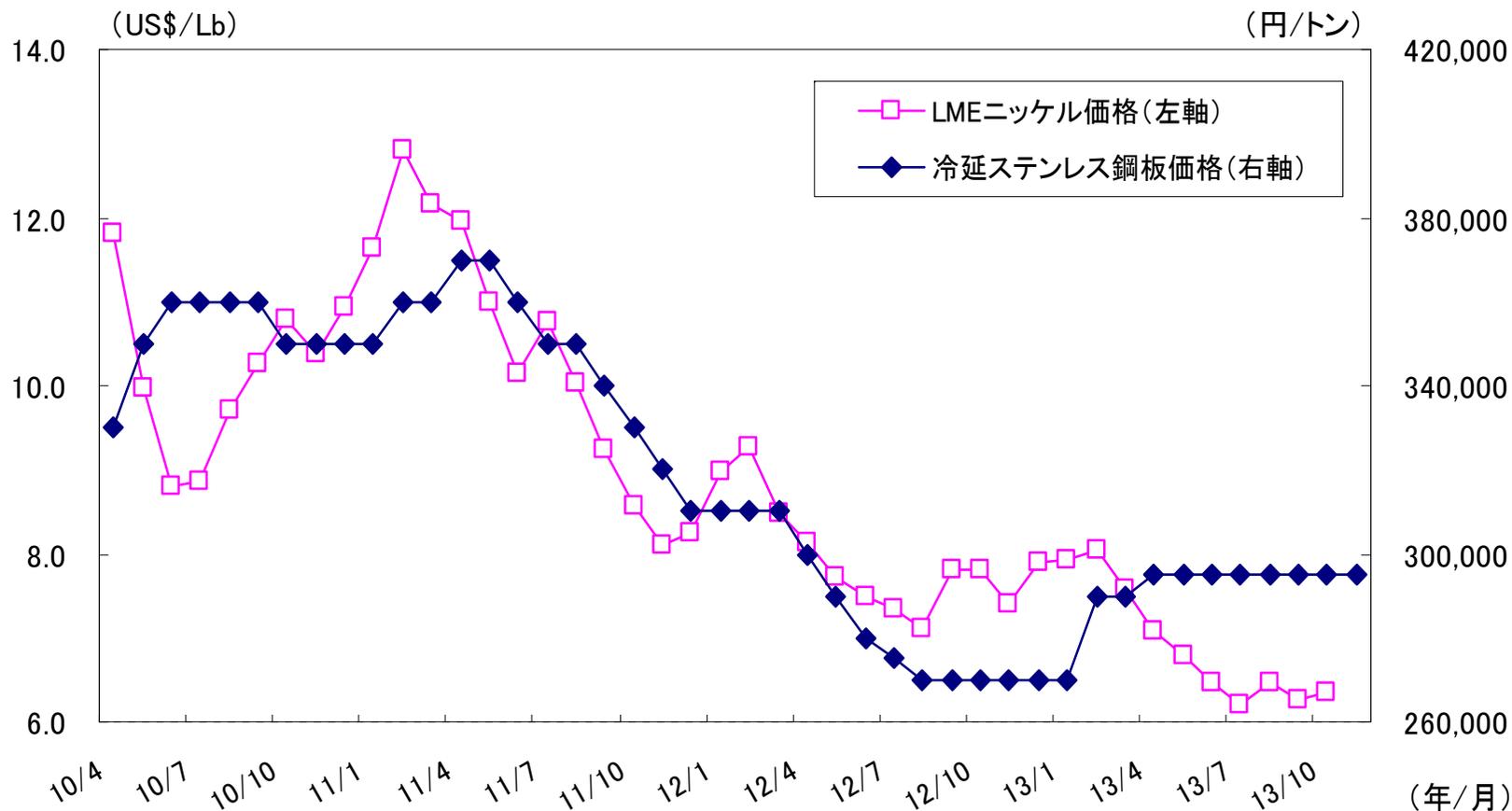
＜参考＞主要データ(連結ベース)

ステンレス一般材の状況

	(1)国内マーケット	(2)海外マーケット
今年度上期	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 期初からLMEニッケル価格が下落、流通在庫圧縮の動きも広がり受注量は低迷 ✓ アベノミクスを背景にした円安や内需活性化により、自動車や業務用厨房向けなどの分野は好調だったが、マーケット全体の荷動きは低調 ✓ 昨年と比較し円安環境下でありながら、輸入材は減少せず国内生産者を圧迫 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ LMEニッケル価格下落と海外生産者の値下げにより、市場のステンレスドル価格が下落 ✓ 引合い自体は堅調、円安環境下ではあるが、ステンレス鋼のドル価格下落を受けた値下げ圧力が強い ✓ 為替変動を注視し慎重な営業活動を実施
今年度下期の方針	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建築関連の活性化などにより需要は上向き、消費税引き上げ前の駆け込み需要もプラス要因 ✓ 震災復興需要や設備投資向けも動きが見られ大型案件も散見 ✓ 円安に起因する電力コスト上昇のため販売単価値上げを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 基本的に上期と同様の外部環境を想定 ✓ 引き続き為替変動を注視し慎重な商談姿勢を継続

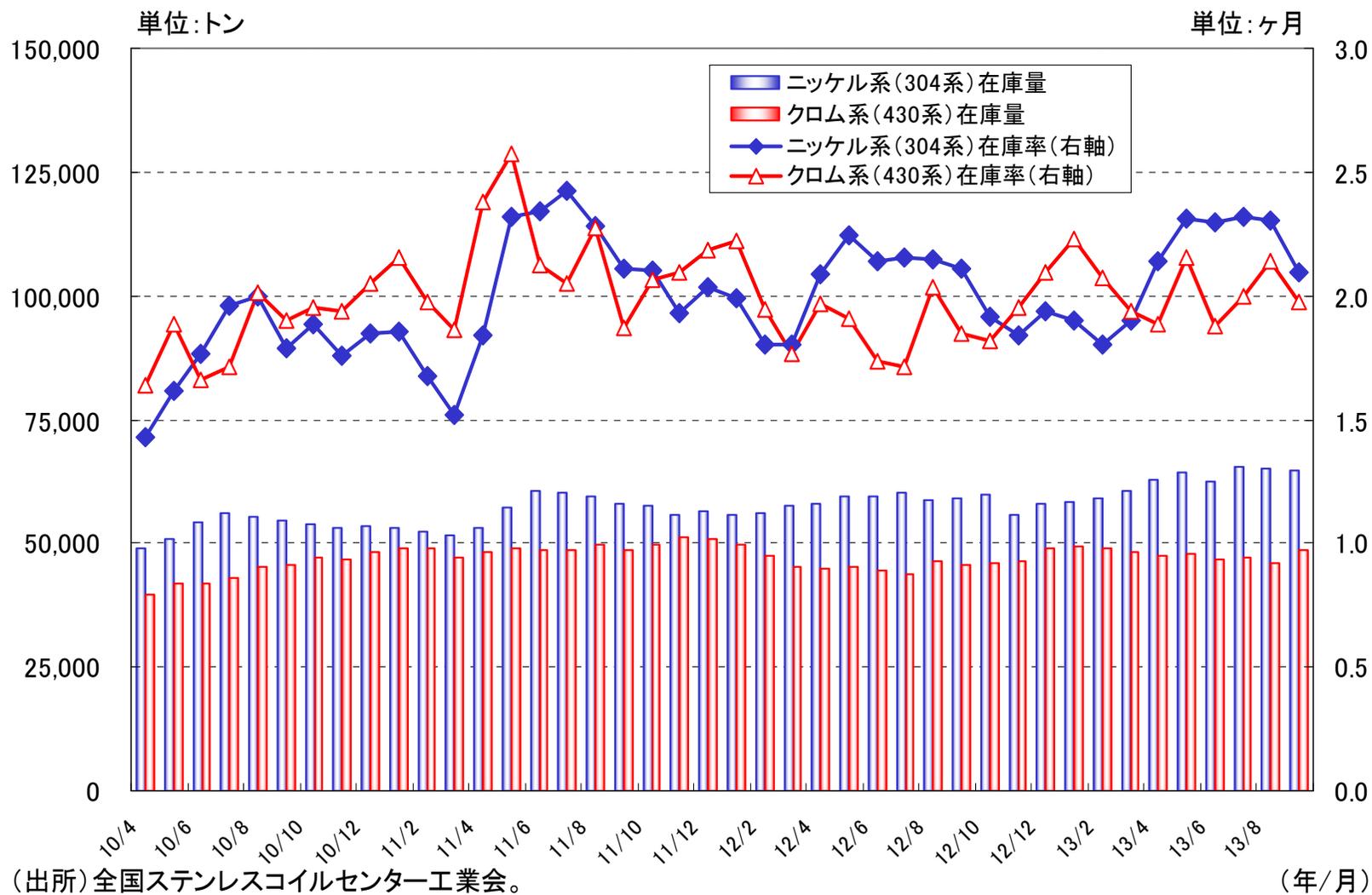
ニッケル・ステンレス価格の推移(月次)

▶ニッケル価格は直近ピークの2月から下落傾向、ステンレス価格は需要見合いの生産継続や円安による輸入原料・エネルギーコスト上昇により維持



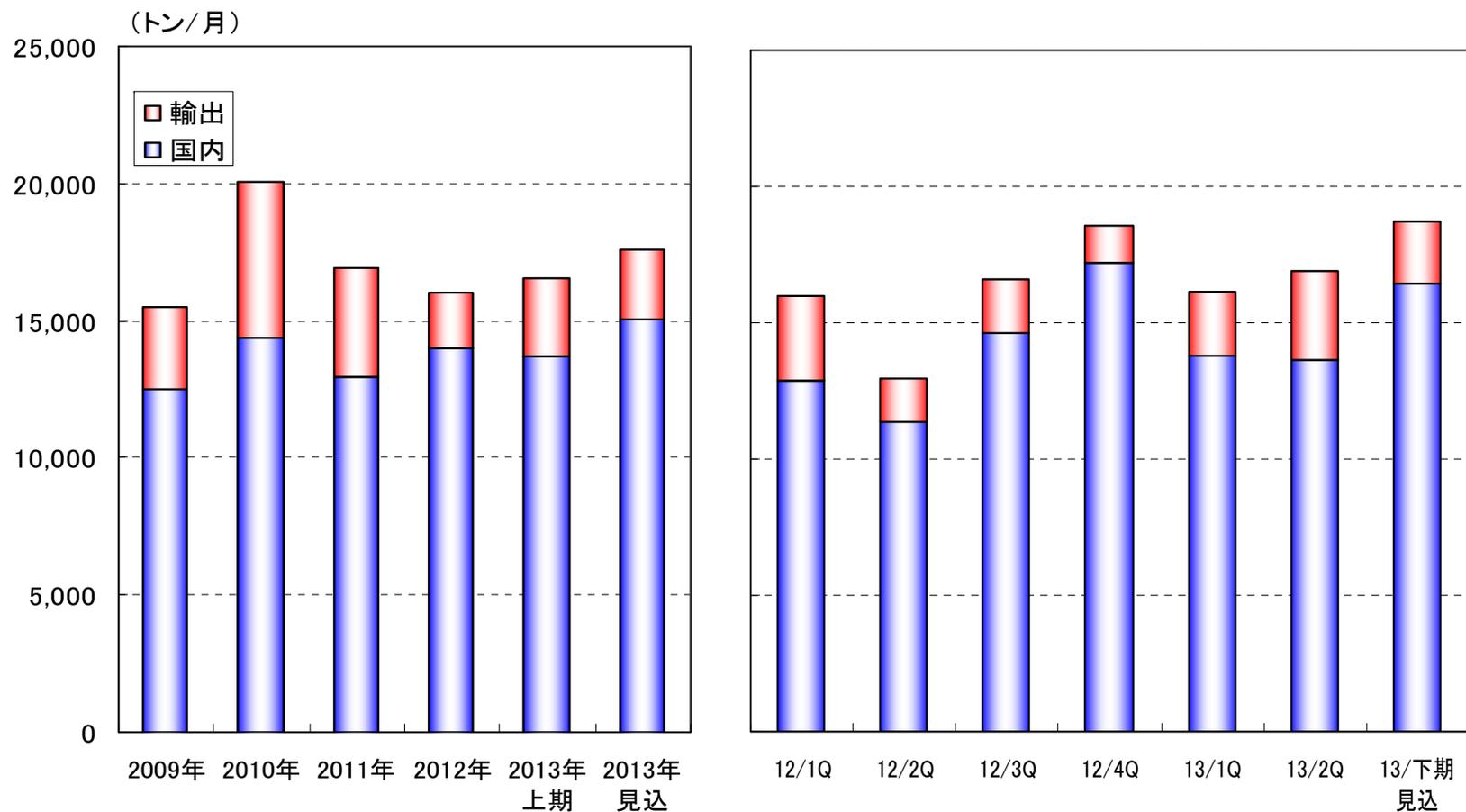
(注1) 冷延ステンレス鋼板: 東京SUS304種18-8、2.0ミリ。
 (注2) 2013年11月の冷延ステンレス鋼板価格は直近。
 (出所) 鉄鋼新聞。

汎用ステンレス(ニッケル系・クロム系)在庫の推移(月次)



販売量実績及び見込み《ステンレス一般材》

- ▶ 上期の国内向けはNi価格下落等により伸び悩み、下期は建築関連需要の活発化などで販売増加を見込む

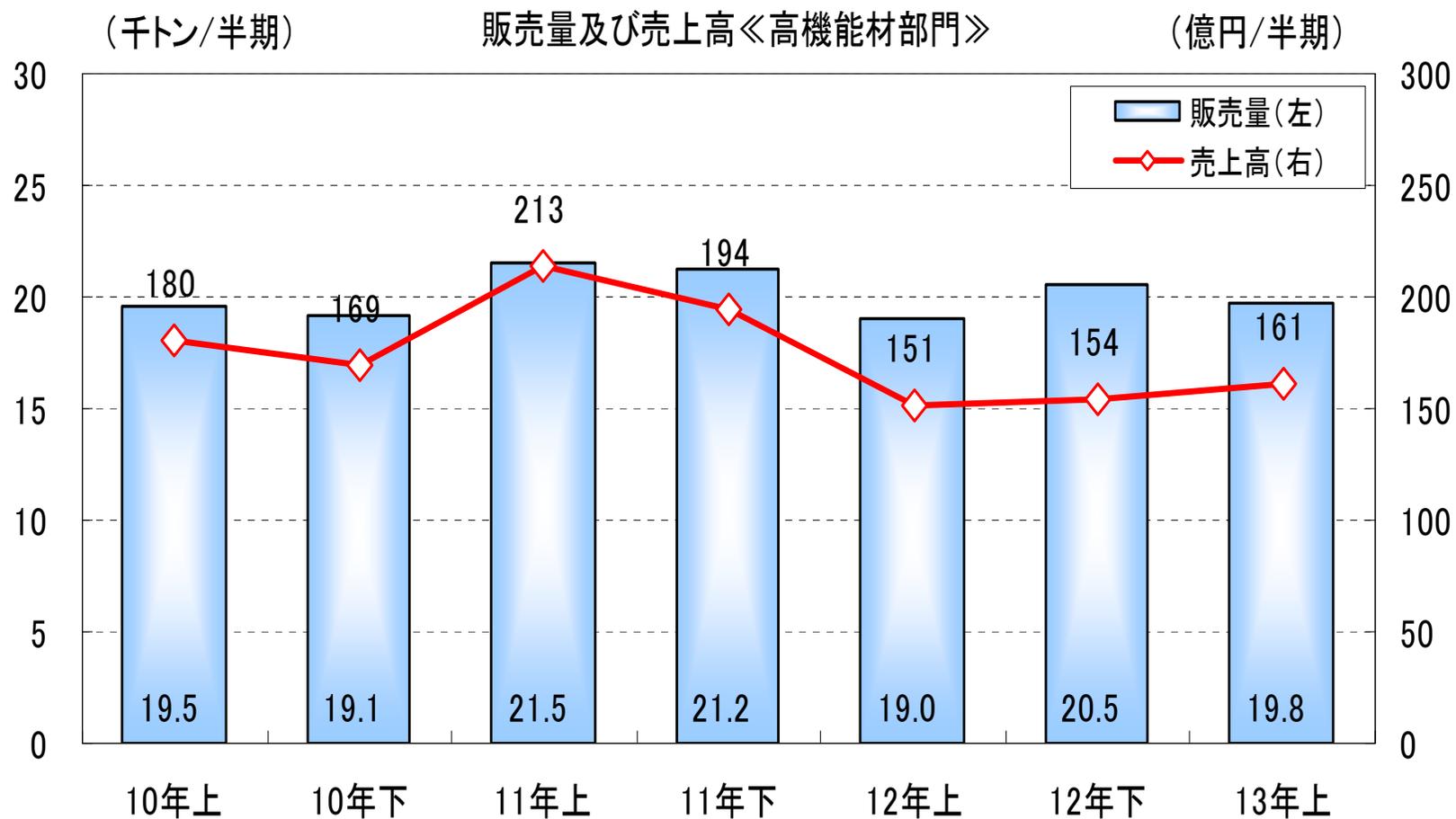


高機能材部門の状況

	(1)国内マーケット	(2)海外マーケット
今年度上期	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 航空機関連需要、溶接用途、貯水槽関連の需要が好調で、ほぼ計画通りの販売を達成 ✓ 円安傾向による需要拡大、震災復興関連需要に関する本格的な動きは見られず ✓ LMEニッケル価格は\$6.5前後で比較的落ち着いて推移したことで販売価格も大幅な変動無く推移 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 欧州は、経済状況が不透明ながらも円安効果もあり若干受注回復 ✓ 中国は、排煙脱硫装置・シーズヒーター等の需要が旺盛で販売増加。但し景気は低調で物件が進展してもファイナンス問題により発注に至らない案件も散見 ✓ 北米は、機器構造材用等の需要が堅調。航空機関連は在庫過多により第2Qから調整局面 ✓ ASEAN地域はOil&Gas関連需要で高耐食鋼が、メキシコはシーズヒーター用材が堅調 ✓ 全体としては前年下期並みの販売量は確保したが計画達成には至らず ✓ 販売価格全般については、欧米競合他社の安値攻勢、中国生産者の台頭もあり低水準で推移
今年度下期の方針	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国内顧客の設備投資案件や震災復興関連と思われる案件を重点的にフォロー ✓ 下期以降に期待される景気拡大による受注拡大を見据えて、国内各拠点における新規顧客、需要の開拓推進 ✓ 日系エンジニアリング会社が手がける発電、エネルギー、肥料、環境に関する国内外物件について情報収集を強化、各拠点連携により需要を捕捉 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 欧州は、円安効果を生かして潜在顧客、各ファブリーケーターへの積極的アプローチを展開、委託圧延活用による製造可能範囲拡大を武器に問屋向け在庫販売を強化 ✓ 中国は、排煙脱硫装置、天然ガスパイプライン等のインフラ整備が進められており、それに向けた高耐食鋼の受注販売を推進 ✓ 北米は、将来を見据えてカナダ、加えて南米向けOil&Gas案件の捕捉。また欧州同様、委託圧延活用による製造可能範囲拡大を武器とした問屋向け在庫販売も強化 ✓ ASEAN地域はOil&Gas関連需要を、メキシコはシーズヒーター用材需要を引き続き取り込み

販売量及び売上高 《高機能材部門合計》

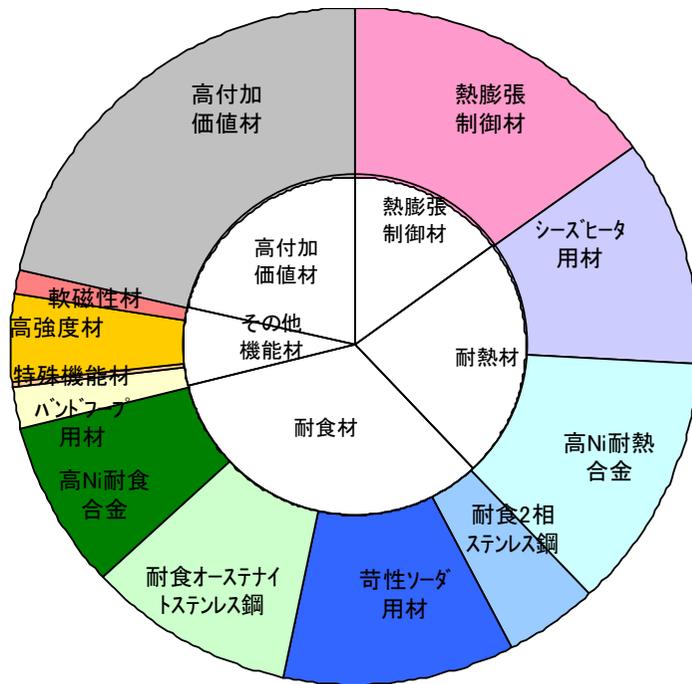
➤ 欧州、中国が不透明な状況下、前年同期および下期並みの販売量は確保



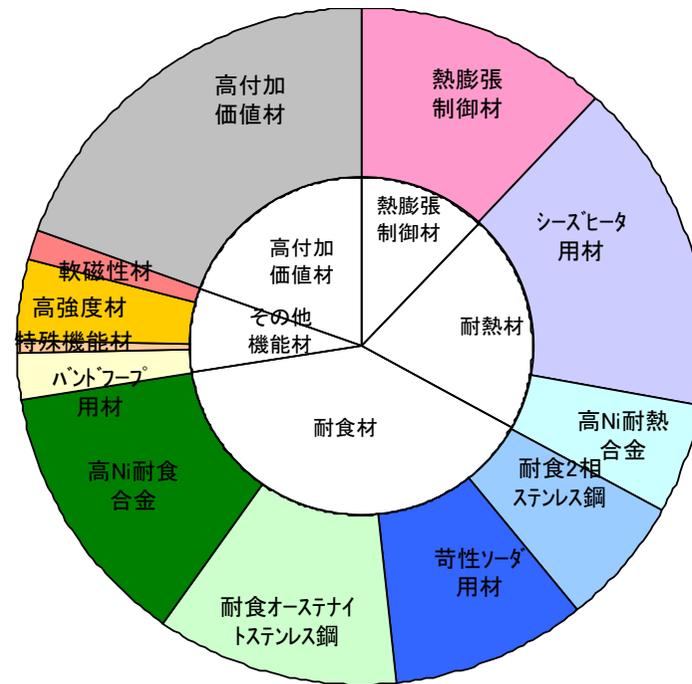
高機能材部門の分類・用途別分類の構成比(売上高)

▶ シーズヒーター用材(米国・住宅部門の回復)、高Ni耐食合金(ASEAN地域・Oil&Gas需要)などが好調

<2013年3月期上期>

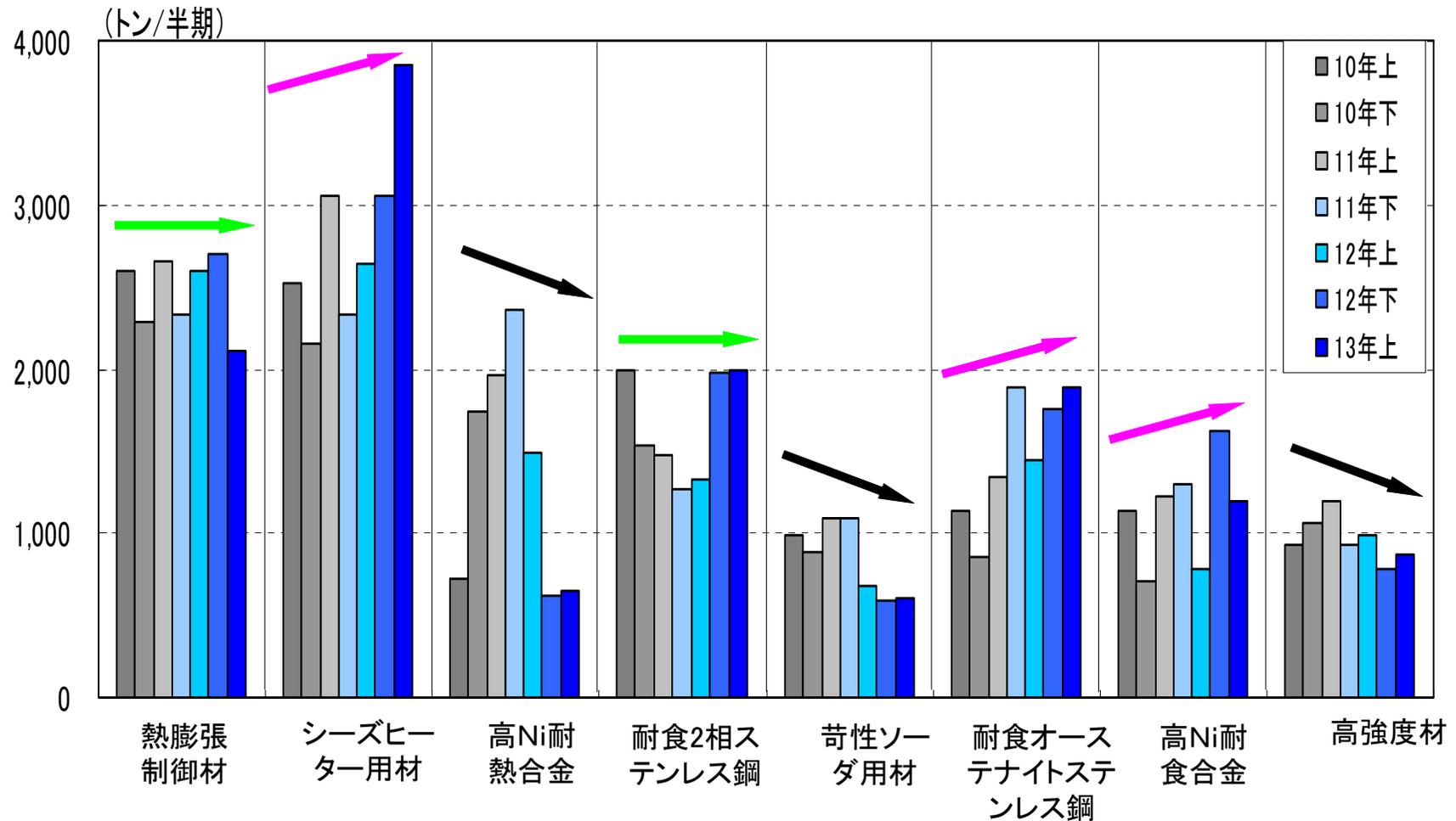


<2014年3月期上期>



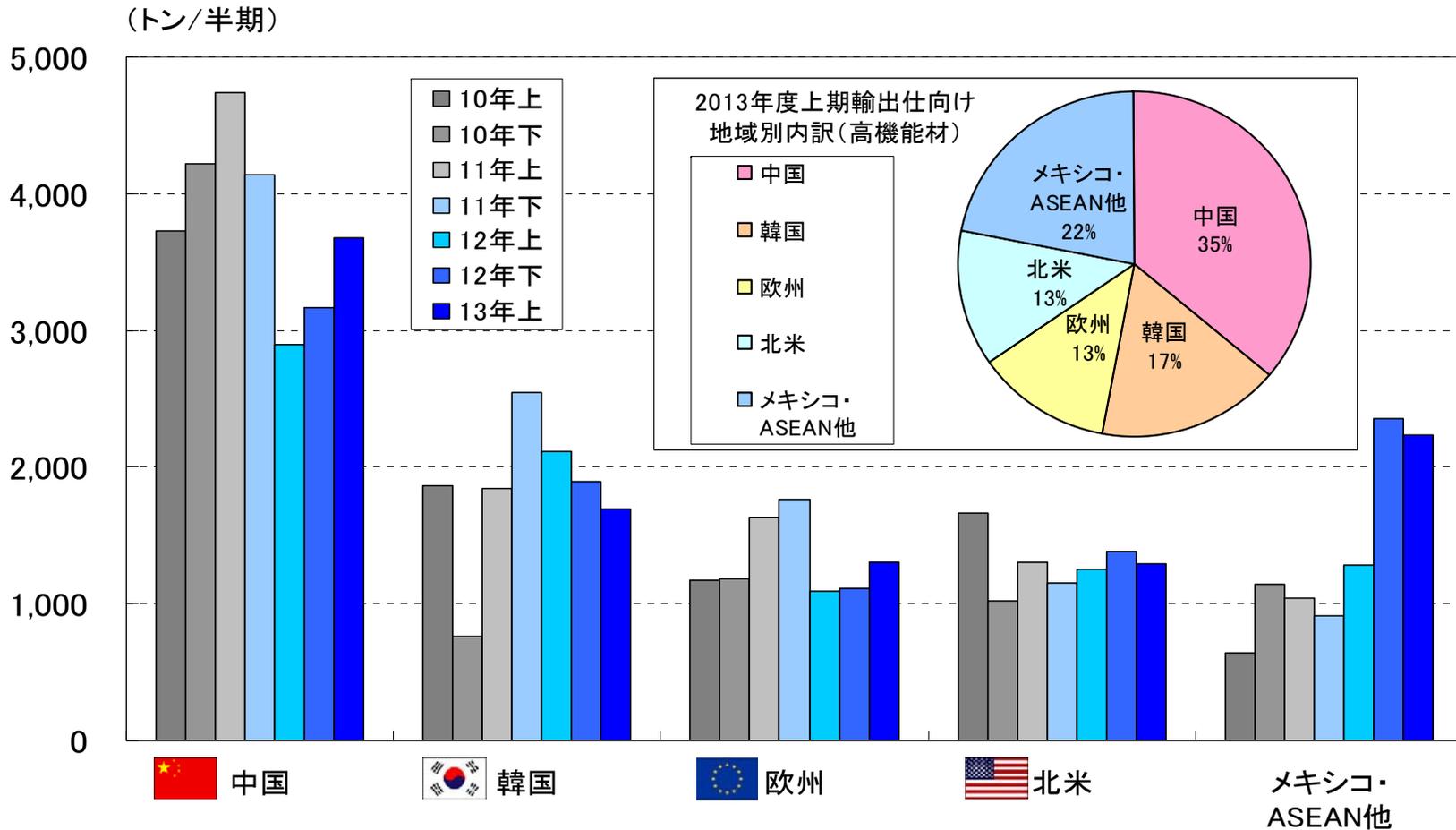
高機能材の分類・用途別分類の推移(販売量)

➤ シーズヒーター用材、耐食オーステナイトステンレス鋼、高Ni耐食合金は増加傾向



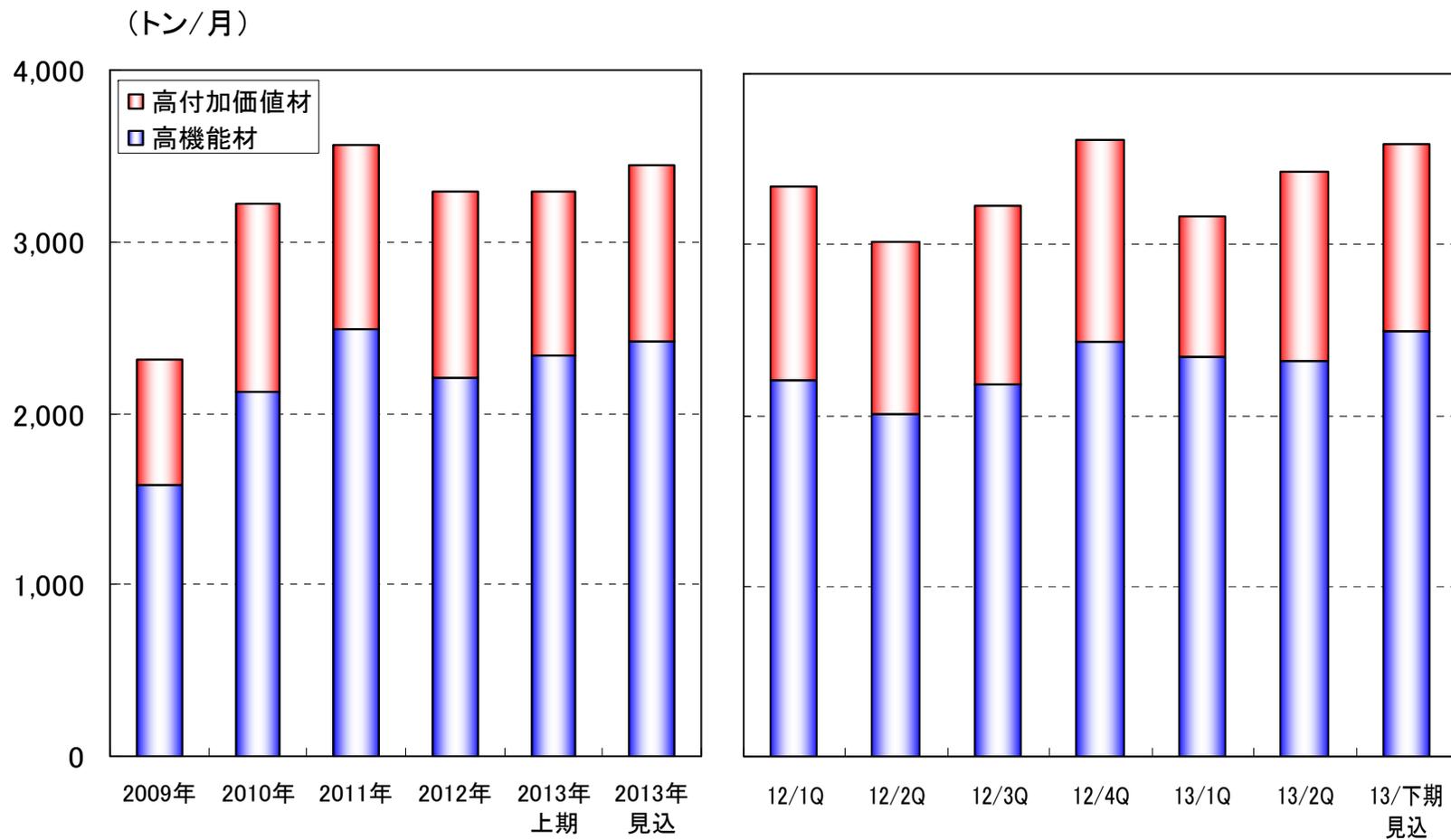
高機能材の輸出仕向け地別推移(販売量)

➤ 中国向けはシーズヒーター用材(加工後、欧米へ)や発電(環境対策用途)向けが増加、メキシコはシーズヒーター用材、ASEAN他はOil&Gas需要が活発



販売量実績及び見込み《高機能材部門合計》

- 今上期は海外マーケットにおいて伸び悩んだが、下期はエネルギー関連需要の捕捉や製造可能範囲拡大により販売増を見込む



高機能材(厚板)の製造可能範囲拡大による競争力強化

➤ 新日鐵住金ステンレス株式会社への高機能材厚板委託圧延開始

【問題点】

- ①高機能材厚板引き合いの多いOil&Gasや各種プラント向けにおいて板幅2m以上の「超広幅厚板」の需要が増加
- ②自社では設備制約上、客先要望の寸法に対応出来ず



【解決策】

板幅2m以上の「超広幅厚板」を新日鐵住金ステンレス(株)へ熱間圧延を委託することで製造可能範囲を拡大(2013年9月開始)

【効果】

製造可能範囲拡大により、受注競争力の飛躍的強化の実現

グローバル市場における成長戦略

▶ 東南アジアにおいて営業体制強化



【日本冶金工業】

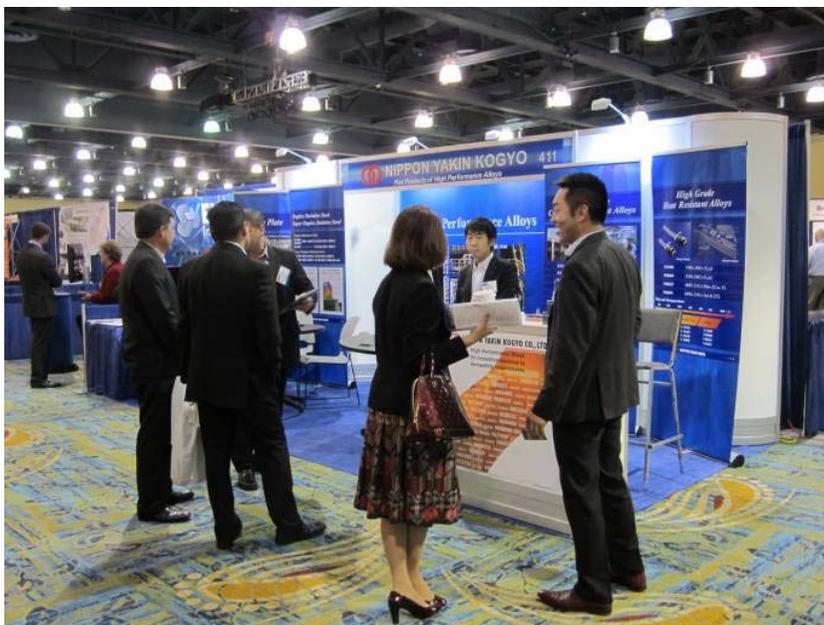
- (1) シンガポールに現地法人(100%出資)を設立
社名: Nippon Yakin Asia Pte. Ltd.
(2014年2月営業開始予定)
⇒ 同地域における石油・ガス・発電・化学分野向けの高機能材ニーズを補足し拡販

【連結子会社】

- (1) ナス鋼帯がタイ(バンコク)に現地法人設立(2014年4月営業開始予定)
⇒ 既存顧客ニーズへの対応拡充とアセアン地域での新規顧客開拓
- (2) ナストア溶接テクノロジーがタイ(バンコク)に現地法人設立
(2014年4月営業開始予定)
⇒ 既存顧客ニーズへの保守・技術サービス向上とアセアン地域での新規顧客開拓

高機能材の拡販推進

▶ アメリカおよびブラジルでの展示会へ出展



SSW 2012 アメリカ・ヒューストン



POWER-GEN BRASIL 2013 ブラジル・サンパウロ

- 〈今後の出展予定〉
- ・2013年11月 Stainless Steel World 2013 (オランダ マーストリヒト)
 - ・2014年3月 NACE CORROSION 2014 (アメリカ サンアントニオ)

「総コスト削減計画」進捗状況

施策及び実績	2013年度 最終目標	2013年度 上期実績	2013年度 下期計画
(1)販売製品構成の見直し			
①汎用ステンレス分野において採算性重視の方針を明確化			
②高機能材分野に経営資源をより集中させ、収益性改善、安定収益の実現			
(2)生産総量に見合った総固定費削減			
①設備集約等による減価償却費等の削減	7億円	4億円	4億円
②総人件費の削減	10億円	3億円	3億円
(3)高機能材コストダウン策等			
①高機能材の汎用ルート化の拡大	18億円	8億円	16億円
②自社製錬フェロニッケル効果拡大	13億円	3億円	5億円
③その他	5億円	4億円	3億円
効果金額合計	53億円	22億円	31億円

配当について

▶ 2014年3月期第2四半期の配当

誠に遺憾ながら見送ることとさせていただきます。

▶ 2014年3月期の配当予想額

経営環境は依然厳しく先行きへの不透明感があることから現時点では未定としております。今後の業績を見極め、開示可能になった時点で速やかにお知らせ致します。

本日のアジェンダ

1. 2014年3月期第2四半期決算サマリー

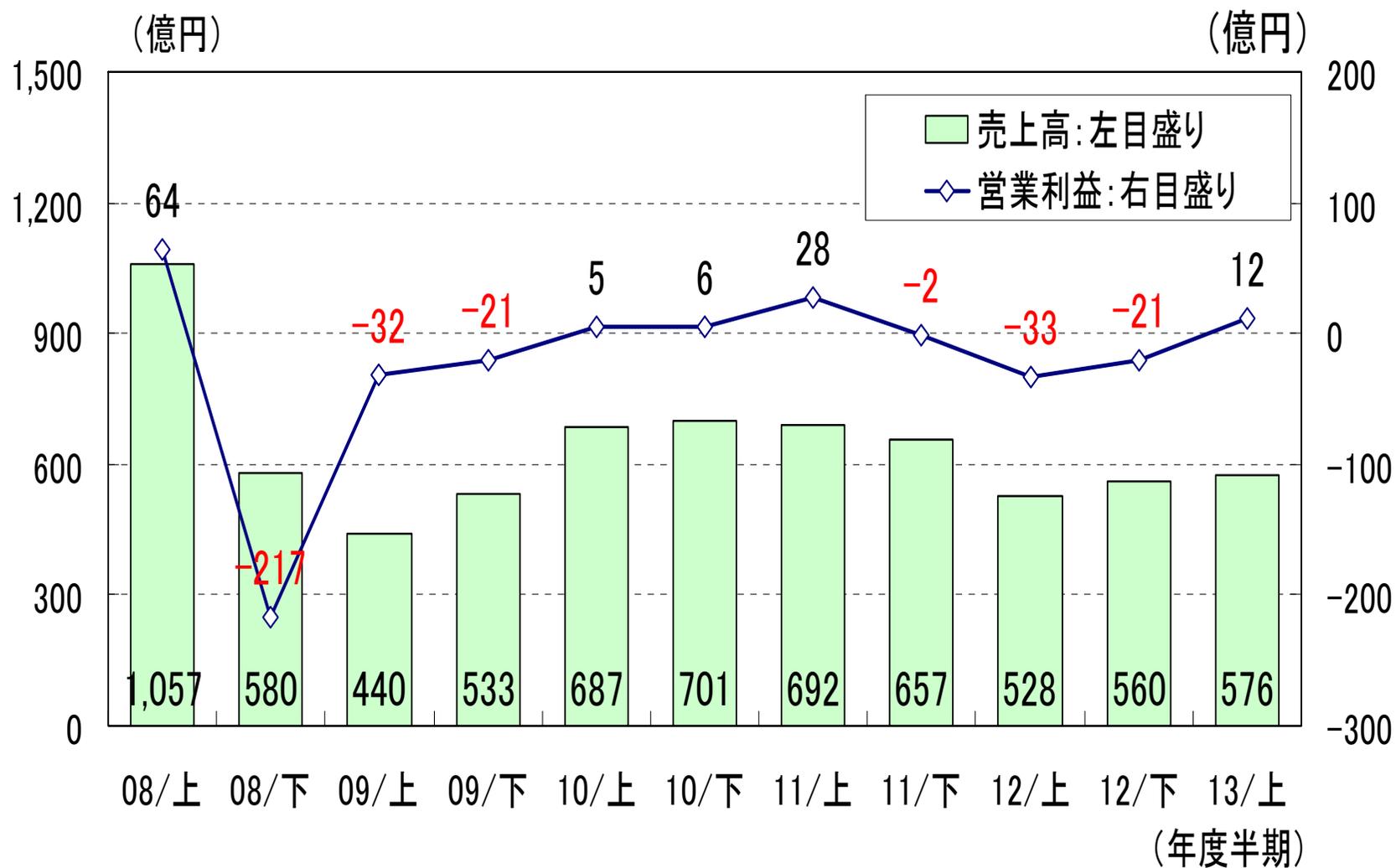
経理部長 小林 伸互

2. 足元の状況と競争力強化の取組み

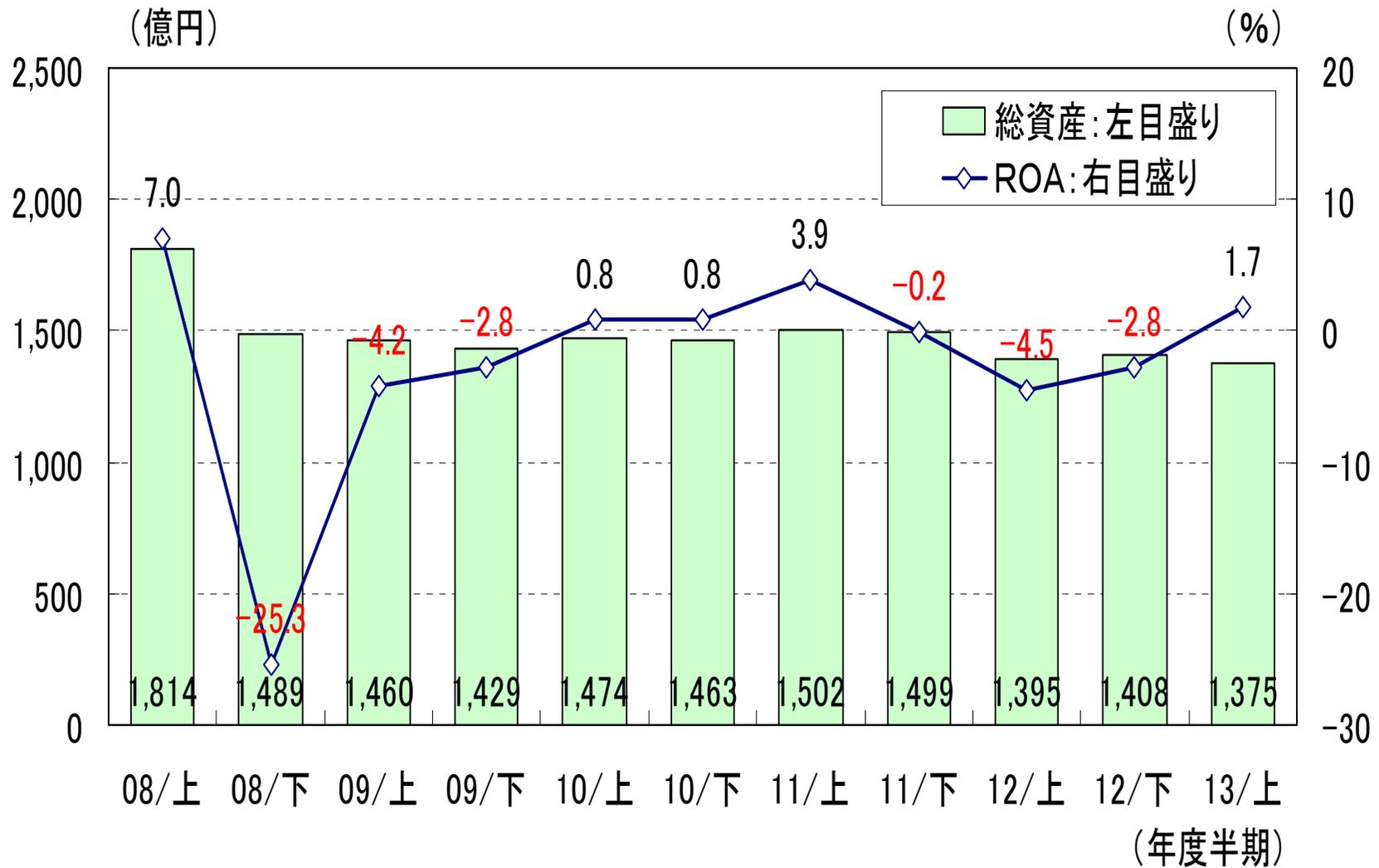
代表取締役社長 木村 始

<参考> 主要データ(連結ベース)

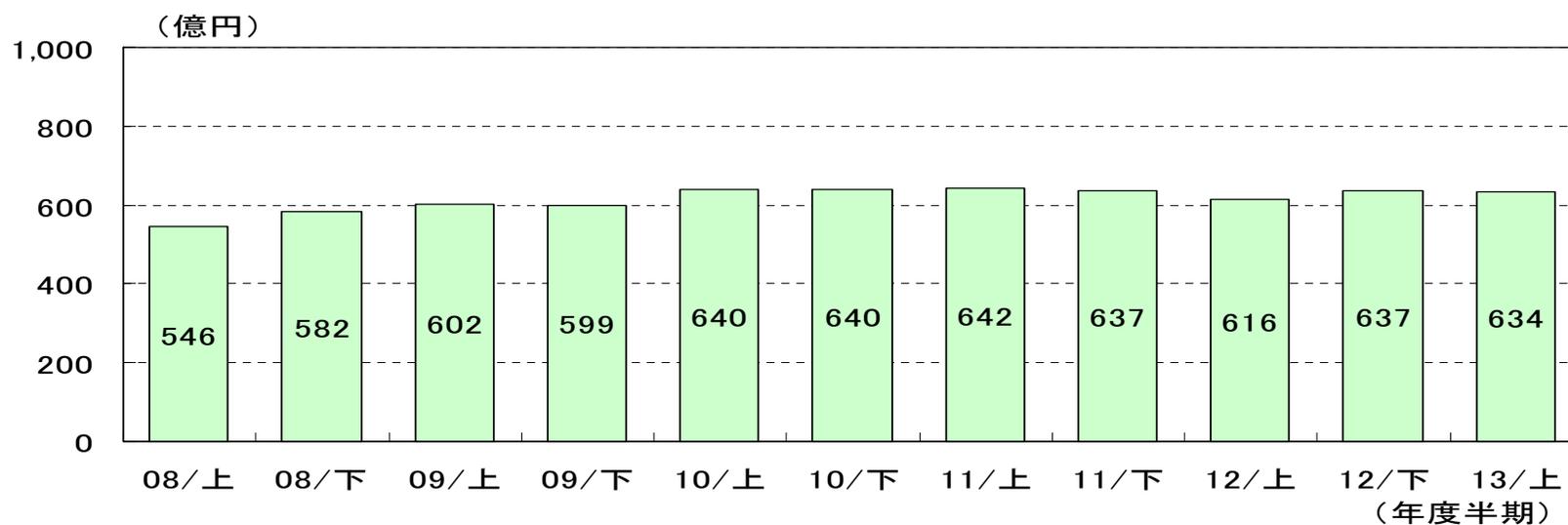
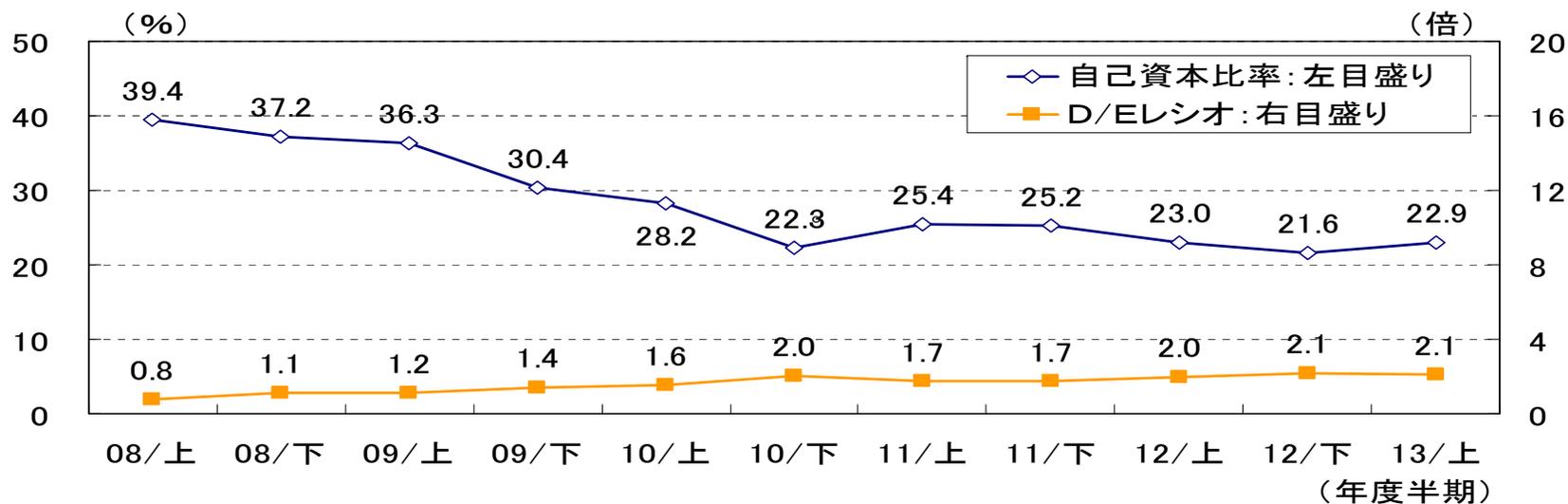
売上高・営業利益



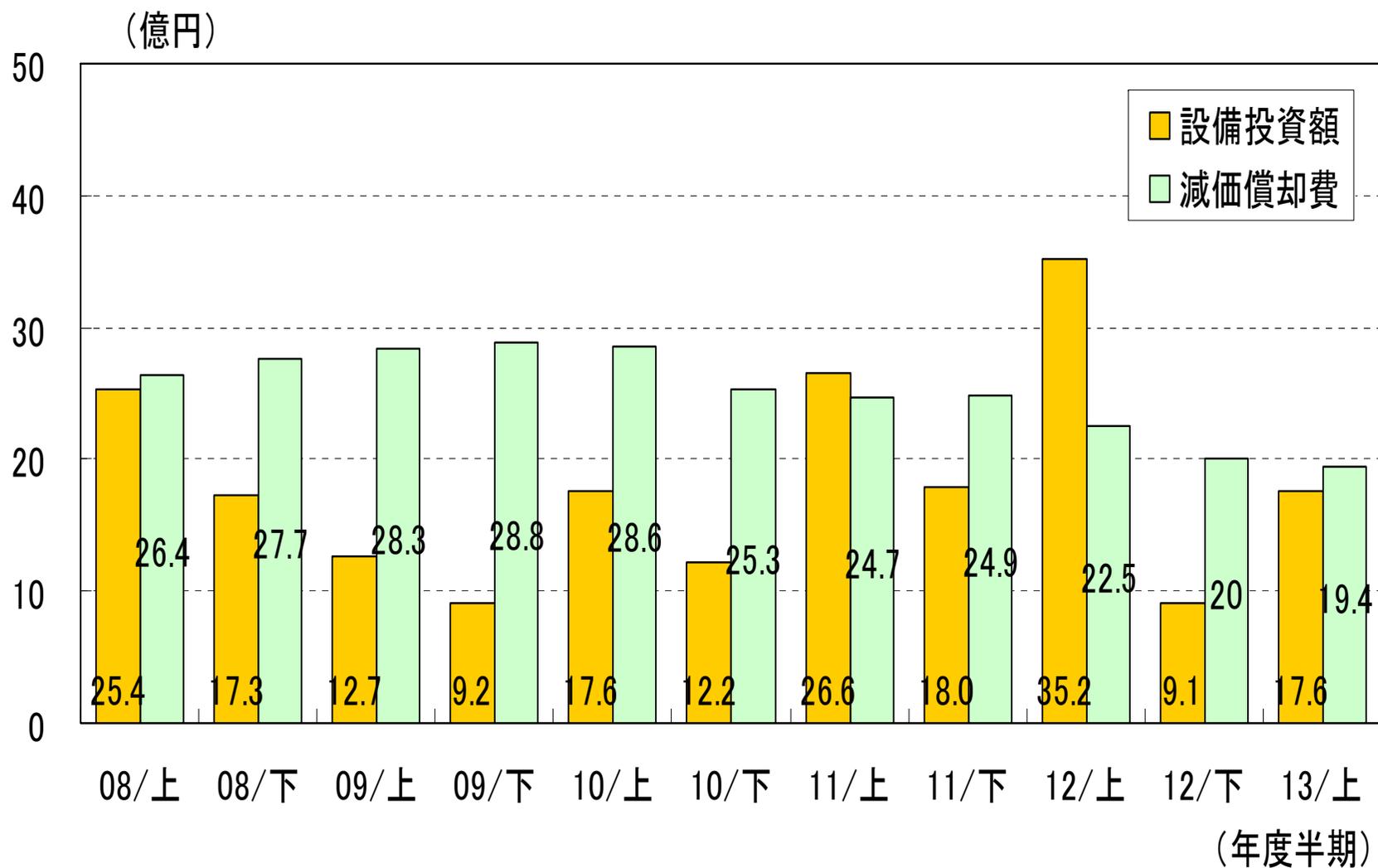
総資産額・ROA



有利子負債残高と自己資本比率、D/Eレシオ



設備投資(連結ベース)



歴史あるステンレスメーカーから新しいステンレス特殊鋼メーカーへ

日本冶金工業

本資料のいかなる内容も、弊社株式の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料に掲載された計画や見通し、予測等は、現時点で入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切の責任を負いかねますので、ご承知下さい。

【本件に関するお問い合わせ】

日本冶金工業株式会社 IR事務局

Tel. 03-3273-3613 /

E-MAIL. irjimu@nyk.co.jp